



2023年10月15日

第698号

1部10円(組合員は組合費に含む)
郵便振替0960-7-117274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

大阪市 次年度から会計年度任用職員へも勤勉手当を支給

大阪市「会計年度任用職員 にも勤勉手当の支給」

国の非常勤職員にはこれまで、勤勉手当の支給がありました。今回、国との均衡から地方自治法の改正に伴い、大阪市も2024年4月からパートタイムの会計年度任用職員に対し、勤勉手当を支給することに決まりました。対象は、①任期が6か月以上 ②週の勤務時間が15時間30分以上等となっています。評価結果の反映は懲戒処分がない限り、本務者と同じ第3区分相当として支給されます。支給額は、基礎額×支給月数×支給割合となり、支給割合も本務職員と同等になっています。

いくつかの問題点

1つ目は基礎額の算定方法

です。教育現場の非常勤講師の場合、3月と8月は授業時数が大幅に少ないため、他の月より減額となり、それを単純に6ヶ月で割ると、1ヶ月あたりの平均支給額(基礎額)が減ってしまうことになります。3月と8月を除いた分を5ヶ月で割るべきです。

2つ目は辞令の問題です。非常勤講師は辞令が今年度から4月1日から3月31日までに変更されましたが、特別支援サポーターや、学びのサポーターの辞令がいつからになっているのかです。年度末の空白期間があれば、夏期ボーナスが大幅に減額される可能性があります。

3つ目は週15時間30分と兼務の問題です。非常勤講師は

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka (EWA)
発行人 増田 俊道
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

ほとんどが15時間30分未満の勤務です。ちなみに大阪市の場合、小中学校で今回の支給対象に該当する職員は374名中70名(約19%)、特別支援サポーターは618名中128名(約20%)であり、学びのサポーターに至っては全員が15時間30分未満でゼロです。

なかには、特別支援サポーターと学びのサポーターを兼務している場合もありますが、職名が異なるため合計時間が15時間30分を超えていても支給対象外となるのです。このように、折角の今回の会計年度任用職員の待遇改善策が十分生かしきれているとは言い難いのが現実です。組合は従来から、非常勤講師の給与をコマ数換算ではなく、勤務時

間での支給を要求していましたが、勤勉手当の支給の制度改正についても、教育現場の会計年度任用職員にその対象者がもっと広がるようにこれからも粘り強く交渉していきます。

他にも、現在の1コマ60分2890円年間35時間という枠内での勤務は現実の勤務実態とは大きくかけ離れている問題があります。授業時間の前後10分で準備やテストの作成、採点、点検などできるわけがなく、サービス残業を強いられています。

組合は、これからも会計年度任用職員に関わる問題について幅広く取り組んでいきたいと考えています。

山口昌孝(書記次長)

大阪府事件

府教委最終陳述を終え、命令待ち

大阪府の講師雇用継続団交拒否を争っている22大阪府事件は、8月8日に組合員が証人尋問を行い、9月25日に最終陳述が行われ現在命令待ちの状態となりました。

また、その前年の団交拒否事件である21大阪府事件は現在のところ中労委での再審査が行われています。

公立非常勤師の不安定さ

府教委で行われた証人尋問では、私学と定時制高校を兼務する非常勤講師組合員が証言を行いました。私学と公立の両方で非常勤講師をする組合員は、授業を担当するという業務内容について双方に大きな違いはないとする一方、長期休業期間中の賃金や賞与

など公立では一切ないという違いを証言しました。また、私学では無期雇用転換をしており、雇い止めを心配する必要がなくなった一方、公立においては2014年度以降継続して勤務をしてきたが、雇用が決定する時期もバラバラであり、勤務校での雇用継続が叶わなかったときの状況が話されました。

講師希望者は講師登録名簿に登録しそれを元に採用されるとしていますが、実態は公立高の校長間でやり取りされているメーリングリストに紹介状を流してもらっています。次年度の雇用がないと分かった段階でこの紹介状を依頼した組合員には即日他校からの

連絡が相次ぎました。しかし、それらは組合員が希望する条件とは異なるものばかりであったこと、そのためどれも断らざるを得なかったとしました。

結果、3月末まで次年度の雇用は決まらなかったが、一度は断った学校から再度連絡があり、勤務時間について自身の要求が叶えられたことから合意に至ったことが証言されました。

教員不足を解決する気あるの?

府・府教委は組合の講師雇用継続要求を管理運営事項であるとして拒否しています。しかし、このように組合員個人が管理職と勤務時間等について交渉することは「黙認」しているのです。教員不足が

騒がれているなか、現在、府・府教委が雇っている貴重な人材を組合との団交で確保するのではなく、現場任せ、運任せで何ら責任を取っていないのです。

組合はこの証言録を再審査を行っている21事件の書証として提出しました。中労委の次回調査は11月6日に予定されています。

官製ワーキングプアと呼ばれるように、最低賃金に張り付き、いつ雇い止めになるかも分からず、その救済措置も設けないなかで非正規ばかりを増やしている状況を変えなければなりません。

酒井さとえ(書記長)

全労協定期全国大会 安心して働く職場・暮らせる社会の実現を!

9月24日、25日の2日間にわたって松竹映画発祥の地、蒲田で第35回全労協定期全国大会が行われました。

6月に急逝された野中保夫事務局長への黙祷に始まり、元気の出る報告で見送れたらいいなあと臨んだ全労協の定期大会でしたが、現状厳しく、勝利報告拍手喝采はなく、労働者のあえぎを感じさせる大会でした。

2023年度活動方針案の説明、諸々の会計報告のあと、質疑・討論となりました。活発な発言の中に混じり、教育合同は「講師組合員の継続雇用要求」

に対する府教委の団交拒否事件の問題点と進捗状況を報告し、支援を呼び掛けました。

発言の中には、労働委員会の指示に従わない企業や司法に対しての疑惑も飛び出し、執行部は三権分立が危うい、声をあげて守っていかなくてはならないと対応しました。

当面の重要な取り組みとして「最低賃金の早期引き上げ」「反戦平和・護憲」「原発再稼働反対・脱原発」の問題を決議として採択し、フリーランス、移住者も含めた労働者の権利と市民生活を守り、男女平等参画の取り組みをさら

に進め、組合活動からジェンダー平等を意識し、多様性を認め合い、誰もが働きやすく暮らしやすい職場や社会をめざすとした大会宣言を採択し、終了しました。

大会が終わって、千円足らずの焼き魚定食を食べました。地方で働く最賃労働者は、1時間働いても、この定食にありつけないんだと思いました。最低賃金に近い賃金で働く人



の割合が今も増え続けているこの国の状況に、組合がいかに抗い、闘うかが問われた大会でもありました。

高田晴美（副執行委員長）

当面の日程

- 10月21日（土）エルシター 13:30開場
講師：布施祐仁さん ジャーナリスト
講師：山城博治さん 平和運動家
シーアネット関西 集会後デモあり
- 10月28日（土）PLP会館4F中会議室
14:00 大阪ネット総会
14:30 記念講演：川口真由美さん
- 11月3日（金）扇町公園 13:45
輝け！憲法 ピーク 清末愛砂さん
- 11月11日（土）国労大阪会館3F
13:30開場 教科書全国集会

文化おちこち (260) 8333h.

近鉄電車で出会った人たち

(1)

定年退職するまでの約40年間、通勤電車に乗っていました。た時間は朝夕合計すると8333時間ほどありました。その間に近鉄電車で出会った人や場面を本当にしました。その中からいくつか紹介します。

土曜日の夕刻、車内に赤ちゃん連れの女性が乗っていた。赤ちゃんはベビーカーでよく寝ているようで声は聞こえず、肌掛けタオルの下から小さな可愛らしい足が見えている。女性は黒いキャップ帽を目深に被り、黒のシャツとパンツ、素足にサンダルを履き、足元には荷物で大きく膨らんだ黒のトートバッグが置いてあった。時々ベビーカーの持ち手を握って揺らしていた（と思っていた）。「大変やな、ベビーカーは嵩張るので周りに気兼ねするなあ」とわたしは女

性を見ながらぼんやり思っていた。

ところが「東花園駅」に電車が着くと、その女性はトートバッグを床から引き上げて肩にかけ、降りるスタンバイをして一人で扉から出ていこうとした。わたしは何度もその女性の横顔を見て、「えっ、あの、えっ、何で？」と声を上げそうになつた。多くの乗客に混じってその女性も降り、ベビーカーは電車内にぽつんと放置された。もしかしたら赤ちゃんは近くの座席にいるおじさん、おばさん、学生のうちの誰かが連れているのだろうか。わたしは「ベビーカーの忘れ物です」とうろたえた目でおろおろと周囲の人に訴えるが、目を合わせて同意する人は誰もいない。鼓動が早くなり、汗が出てくる。きっと持ち主はベビーカーと離れたところいるに違いない。でもそんなことをするか？と否定する。もしも人間の忘れ物だとしたら、近鉄電車はどのように対処するのだろう。女性には何か事情があるのだろうか、よほど思い詰めてのことだろうかと頭がぐるぐる回る。やがてわたしは「石切駅」で降り、置き去りになったベビーカーをホームで見送った。

【好よし】

なくそ！官製ワーキングプア大阪集会へ

10月29日（日）10時～16時45分、エルおおさか本館6階大会議室において、第11回なくそ！官製ワーキングプア大阪集会が開かれます。

日本社会において約4割にも達する非正規労働者が抱える問題が衆目にさらされています。特に公的部門における問題は組合が取り組む大阪府の雇用継続団交拒否事件でも明らかに、現状ではなんら解決策が見つけられていません。全国の闘う仲間とともに、一刻も早い解決を目指して今年も集会がもたれます。

午前は「会計年度任用職員制度」、「公共サービスの劣化」、「公務非正規ハラスメントアンケートから」の3分科会が開かれます。

午後からは全体会となり、



開幕まで1年半となつた万博▼経済界が3分の1負担する建設費は2度の増加で2,300億円に▼運営費と警備費で千数百億円、8割は入場料（3,360万人で1,253億円）で賄うが赤字は税で

たたかいの現場として組合から、山下顧問、北九州で闘う組合員からの報告があります。また公務職場でのパワハラ・セクハラ・マタハラ・いじめ等のアンケート分析、竹信三恵子さん（ジャーナリスト・和光大学名誉教授）の講演そしてドキュメント映画「わたしは非正規公務員」の上映など盛りだくさんの内容で行われれます。

それぞれの現場で働く公務非正規労働者の思いや問題点を、ともに共有できたらと思います。そして、希望につながる意見交換ができればと思います。多くの集会への参加を待っています。

田邊岸代（執行委員）

負担▼何よりの問題は認知度と人気の低さ▼「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博テーマ▼コロナ禍での100万人あたりの累積死者数が974.4人（2023年5月8日）と全国一の大坂では、この「いのち」は全国で一番安い。